

【村田 彰弘先生抄録】

## 『さすらいのラボ経営と燃え盛る技工士魂』

私が開業した2010年以降、業界のデジタル化・働き方改革の定着・新型コロナウイルスの感染拡大・自身の考え方の変化等々・・・本当に様々な変化があり、たった干支が一周する間に一経営者として非常に刺激的な経験を色々させて頂いた。「昔の常識は今の非常識」ということを痛感する日々であり、自身が臨床に携わった時とは全く違う世界になったと言っても過言ではないだろう。

デジタルが歯科技工業界に本格的に組み込まれ出した頃（20年ほど前）、「これで自分達の仕事はかなり楽になるのではないか」という期待と「デジタルによって自分達の仕事が無くなるのではないか」という不安によってデジタルが迎えられたように記憶している。

しかしデジタルの波が一段落した現在、「デジタルとの向き合い方」というものはある程度業界として同じ方向を向き出したのではないかと感じている。

そこで今回は、今「デジタルでできること・できないこと」「デジタルでやるべきこと・やらざるべきこと」、そして加速しながら変化する時代の歯科技工所そして歯科技工士として、「変わるべきこと・変わらざるべきこと」を演者の考えを交えながら供覧したい。